

編集後記

今回は、「鞭による教育効果」について触れてみたい。というのは、最近、社会で見られるいくつかの事象は、実は、根は同じ、ここにあるのではないかと、思えたからだ。

ふと見たテレビに戸塚宏氏の顔が映し出された。記憶が薄れた方もいるかもしれないが、訓練生への暴行、死亡事故で問題となった1983（昭和58）年の「戸塚ヨットスクール事件」の中心人物だ。最高裁まで係争した末、6年の実刑が確定し、今年4月に服役を終えたばかりだ。彼の主張は、未だ、「体罰は教育だ」である。正に、鞭によって人を矯正させ、成長させるというものだ。一方、現代の教育論者は、一様に、体罰を否定している。学校内での生徒に対する教師の体罰事件が報道されるたび、校長らがテレビに向かい深々と頭を下げ陳謝する。そして、教育委員会は、生徒保護者側の気持ちや世論を慮り、当の教師を「懲戒免職」にして収束を図る。だが、教育の本質論はどちらからも聞かれない。

我々が子供の頃は、教師の愛情溢れた(?)体罰当たり前、スパルタ教育当たり前、高校の体育系部活は地獄が当たり前、…であった。自分ではどうに

もならない弱点、短所を是正、矯正するには、自分ではさらにどうにもならない「外からの力」が有効とされた。だが、現代の教育論は、短所の是正より、長所のさらなる助長に向っているらしい。「子供は褒めて育てる」が、教育基本となったようだ。「鬼の大松」から「仏の小出」に時代は変わったのかもしれない。

さて、我が国の交通事故による死亡者は年々減少しているらしい。1996（平成8）年に年間1万人を下回り、昨年（2005年）には、警視庁の発表で年間6,871人だった。この背景には、自動車の機能、整備向上、道路構造の改良、救急医療体制の整備や運転者の遵法精神、モラルの向上などがあると指摘されている。だが、一方で気になる報道もある。最近、「ひき逃げ事故」が多発している、というのだ。これはかなり悪質な犯罪だ。事故責任の完全放棄だ。この現象に対し、ある報道は、「道路交通法の改正による、飲酒に起因した事故の罰則強化がある」と指摘している。飲酒運転は、昔も今も、重大な犯罪である。罰則が強化されたことにより、事故を起こした者は、飲酒の発覚を恐れ、被害者を放置したまま逃走し、さらに重い罪を重ねることになる。勿論、酒を飲み、車を運転し、事故を起こし、人を傷つけた本人に、弁解の余地は無

いし、同情することもない。ただ、気になるのは、罰則強化が、単純に犯罪抑止に繋がらないことである。

そしてもう一つ。今年1月4日から施行された「改正独占禁止法」の効果の行方だ。これにより、法が禁じたカルテル形成や入札談合に対し、課徴金算定率が大幅に引き上げられた。例えば、建設業の大企業の場合、課徴金は違反期間中の総売上額に対し6%から10%に引き上げられ、さらに、過去10年に遡り再度違反の場合にはその5割増、15%にもなる。まともな粗利で建設業を営んでいる企業なら、この課徴金一発で経営破綻に追い込まれてしまう。正に、致命傷となる体罰だ。しかも、この課徴金に減免というアメを付け、同犯者からの密告を推奨している点にも注目だ。かつて、ロッキード事件でのコーチャン発言がアメリカ流司法取引から出されたことに、多くの日本人は違和感を覚えたはずだ。それが、今の日本で現実となろうとしている。果たして、この強烈な鞭と魅惑のアメで、我が国の建設業界をどう矯正、成長させようとしているのか。また、その試練に、今日の業界体力がどこまで耐えられるのか。この荒波を越えた向こうに、どのような未来があるのか。今は、ただ、不安と期待のなかで見守るしかないようだ。 〈編集委員長 石川和秀〉



No.56 2006 Jul. 平成18年6月1日発行

編集：「No-Dig Today」編集委員会
編集企画小委員会

発行所：日本非開削技術協会

〒107-0052 東京都港区赤坂1-6-14

赤坂協和ビル3F

TEL.03(3586)5181 FAX.03(3586)5183

発行人：松井大悟

印刷所：株式会社 LSブランニング

● ご案内 ●

◇本誌のご購読について

ご購読をご希望の方は、巻末の振込み用紙で当協会まで直接お申し込み下さい。

○購読料(税込)

1冊 1,500円(本体1,429円)〒400円

1ヵ年(4冊)6,000円(本体5,716円)〒1,600円

◇発行

年4冊：1・4・7・10月1日発行

◇広告のお申し込みについて

本誌に広告の掲載をご希望の方は、編集室までご連絡下さい。媒体資料等お送り致します。

◇投稿

・技術論文

非開削に関連する技術、製品についての論文を募集しています。

投稿論文は、委員会で選考の上掲載論文には薄謝をお送り致します。

◇情報のご提供について

・No-Dig NEWS ダイジェスト

非開削技術に関連する新技術、新製品、図書の紹介、関連団体の動向や講演会、セミナー・展示会の案内など、情報をお寄せ下さい。